

令和2年度 地域振興推進費事業実績一覧

佐久地域振興局

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	成果指標・目標値	達成状況	事業実績・成果
さくっと「ずく出す」プロジェクト	1	さくっと「ずく出す」プロジェクト ～健康増進機器開発企業等と連携した「ロコモ」予防の普及～	佐久保健福祉事務所 商工観光課	293,106	○運動支援ボランティアを活用する市町村数 6市町村以上	達成	○さくっと「ずく出す」ネットワーク会議は、感染症拡大防止の観点から参集しての開催を見合わせ、会議の構成機関・団体にスポーツ啓発パンフレットと健康二次被害予防ガイドラインの情報提供を行い、感染防止策を徹底しながら運動習慣定着に向けた取り組みが推進されるよう呼びかける機会とした。 ○ずく出すサポーターフォローアップ講座は当初の開催予定回数を半分に縮小して準備を進めたが、12月の予定日直前に、佐久地域で新型コロナウイルス感染症が多数発生したため、開催を中止した。講義をお願いしていた講師には、急遽「コロナ禍でも身体活動を続けることをあきらめないために」と題した資料作成を依頼し、ずく出すサポーターへメッセージを届ける形で、これまでの活動が途切れることなく継続されるよう呼びかけた。 ○9月にWebと参集形式を組合わせてフォーラムを開催した。約60名が聴講し、ウォーキングボールを使用した講習の実施等によりロコモ予防(フレイル予防)と健康寿命の延伸について理解を深める機会となった。 ○コロナ禍で、ずく出すネットワーク会議のメンバーも思うように活動できなかったため、運動チェックシートの実施には至らなかったが、市町村単位でシニア世代に対する取組が様々な工夫され、運動支援ボランティアを活用している市町村数は昨年度より1増え6市町村となった。
	2	さくっと「ずく出す」プロジェクト ～働き盛りのための運動セミナー～	東信教育事務所	206,169	○企業等が開催する運動教室への講師派遣回数 10回以上 ○運動教室への参加者 300人以上	未達成	○運動教室への講師派遣事業については、健康講座実施団体の希望内容(椅子に座ってできる簡単体操・ポッチャ交流会)に対応できる講師を派遣することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により講師派遣の申込が大幅に減り目標値には達しなかった。 ○コロナ禍により目標未達成となった上記事業への代替として、ホームページ及び公式YouTubeサイト「サクッと健康Jyo-Syo!」チャンネルにて健康運動動画を3本配信し、住民の運動不足やストレス解消を図った(総視聴回数956回)。 ○運動用具(ポッチャ、ウォーキングボール、ラダーゲッター)の貸出を20回行った。 ○文化財ウォーキングマップは、運動講座における配付のほかホームページにも掲載し、活用を図った。
	3	市街地におけるウォーキングトレイル(散策路)や千曲川河畔ウォーキングコース等の整備	佐久建設事務所	-			
佐久「地消地産」プロジェクト	4	宿泊施設等佐久地域の魅力ある地域食材活用促進事業	佐久農業農村支援センター	-			新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業中止
	5	日本酒産地SAKU情報発信事業	商工観光課	-			
	6	さくさく野菜食べようキャンペーン	佐久保健福祉事務所	400,000	○塩分チェックシートの総合点の減少 男性14.7点以下、女性12.5点以下 ○キャンペーン登録店舗数の増加 62店舗以上 ○3つの星レストラン登録店の増加 18店舗以上	一部達成	
いいぞら佐久カラマツ活用プロジェクト	7	佐久カラマツ林業推進事業	林務課	890,725	○職場体験参加者数 30人 ○小学生等への森林・環境教育の実施、支援回数 10回 ○主伐後のカラマツ再造林面積 80ha	一部達成	○林業従事者確保に向け、高校生を対象にした「森のお仕事」体験学習について、本年は管内県立高校へ直接出向き参加依頼を行う等参加者の確保に取り組んだが、コロナ感染症の影響により予定した参加者の確保ができなかった。しかし、参加者からは「地域林業の現状や高性能林業機械に触れることができ良かった」等の意見があった。 ○カラマツ再造林については、コロナ感染症の影響により全国的に木材需要が落ち込み懸念したが、後半から木材需要が回復し再造林面積は目標値を上回る実績となった。 ○合わせて、地域内一般住民への需要拡大を目指し地消地産の取組みとして、地域産カラマツ材製品のPRとして合庁県民ホールヘダイニングテーブル・椅子のセットを設置した。

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	成果指標・目標値	達成状況	事業実績・成果
星空・宇宙を学び、楽しむプロジェクト	8	佐久地域広域観光推進事業	商工観光課	2,114,200	○佐久地域絶景ポストカードのホームページへのアクセス件数 40,000件	達成	○作成した佐久地域絶景ポストカードは、軽井沢駅や観光協会及び軽井沢町内の観光施設に配置し、コロナ禍にもかかわらず多くの観光客にお持ち帰りいただけたことが影響し、ホームページのアクセスの件数も目標を達成することができた。 ○ラッピング電車情報発信事業は、車両ラッピングデザイン及びシートの制作が完了した。
高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト	9	ボールを使ったウォーキングによる健康長寿をめざすヘルスツーリズムの仕組みづくり	商工観光課	-	新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業中止		
	10	小海線沿線や幹線道路周辺のビューポイントの発掘とその魅力発信、視点場の整備	佐久建設事務所	660,000	○ビューポイントの案内看板設置 1市町村2箇所	一部達成	○過年度に発掘した佐久管内のビューポイント箇所の一部(南牧村)において案内看板設置を実施した。 ○看板のデザインおよび設置位置に関しては、村のイメージや意向に沿った看板となるよう、村と綿密に調整を行った。
佐久地域の移住スタイルの探求	11	佐久地域の移住スタイル発信事業	企画振興課	1,328,560	○セミナー参加者のアンケート満足度80%以上	達成	【佐久地域移住・教育セミナー(オンライン)】 ○全国から39組の参加者があり、佐久地域の魅力や教育団体の特色を広く知ってもらうことができた。 ○事後アンケートでも「とても満足」「満足」の割合が、83%で目標値を超える満足度を得られた。 ○佐久地域への先輩移住者4名に参加いただき、移住体験者の生の声を届けることができた。
佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR							【登山愛好家向けの移住セミナー(オンライン)】 ○全国から31組(事前申込は51組)の参加者があり、新たな切り口として佐久地域でのアウトドアライフの魅力を多くの人に知ってもらうことができた。 ○事後アンケートでも87.5%の方に、満足等の評価をもらうことができた。 ○管内7市町村担当職員のコメントや、2名の山好き先輩移住者の取材記事を掲載した特設ページへの訪問者数(UU)が、約2週間で5,100を超えるなど、当日参加しなかった方にも広く情報を発信することができた。 【移住者への支援策の検討】 ○広域連合の広報誌等で広く周知した上でのアンケート調査の実施により、佐久地域への移住者の声を多く集めることができた。
固有の資源としての活用	12	浅間山魅力発信事業	商工観光課	990,000	○観光地利用者統計の「浅間山」利用者数の対前年(令和元年)増加率 8%増	未達成	○新型コロナウイルス感染拡大や噴火警戒レベルの引き上げにより、登山者数は大幅に減少した。 ○逆風の中でも、噴火警戒レベルに応じた登山ルートの紹介や、山麓の小諸市の情報を国内最大の山岳情報山岳情報サイトに掲載し、コロナ後の登山者数の増加に向けて情報を発信した。 (浅間山利用者数 令和元年 26,300人 令和2年<速報値> 21,000人 対前年比79.8%)
しあわせ信州創造プラン2.0に基づく取組	13	佐久地域就業促進・働き方改革推進事業	商工観光課	277,872	○学生&保護者向けセミナー参加人数 50名 ○学生&保護者向けセミナー参加満足度(アンケート) 70% ○テレワークセミナー参加人数 50名 ○テレワークセミナー参加満足度(アンケート) 70%	達成	【佐久地域 学生&保護者向けオンライン就活セミナー(令和3年2月6日開催)】 ○オンライン29端末、現地4名が参加した。把握できる範囲での参加者の内訳は、学生24名、保護者4名。 ○アンケートにて、セミナーの満足度は95%が「満足」又は「やや満足」と回答。講師の説明も全員が「参考になった」と回答しており、参加者にとって有意義な情報提供ができた。 【テレワーク&オンライン会議体験セミナー(令和2年7月16日開催)】 ○33団体38端末が参加し、1端末から複数名で視聴した団体もあった(従って実際の視聴人数は不明) ○アンケートにて、セミナーの満足度は93%が「満足」又は「やや満足」と回答。テレワーク・オンライン会議の理解が深まったかという質問には、全員が「そう思う」又は「どちらかというと思う」と回答した。
地域計画の推進のために必要な事業	14	佐久管内県機関の情報発信事業	総務管理課	660,000	○定時における情報発信 毎週1回以上	達成	○エフエム佐久平において、毎週金曜日の7時21分から約8分間にわたり、1年間(合計52回放送)佐久管内県機関から住民の皆様を知ってもらいたい情報を発信する番組の放送を実施した。 ○今年度は特に、「おいしい信州ふーど名人」、佐久総合技術高校の生徒、小海町役場職員など多様な方々に出演いただくことで、番組の認知度を高め、県業務の周知や地域の活動などの県民の理解度を深めることができた。 ○新型コロナ関連の情報も、本事業を実施することで、タイムリーに周知することができた。

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	成果指標・目標値	達成状況	事業実績・成果
地域へ緊急的対策を講ずる事業	15	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等事業	総務管理課	975,280	○特に感染拡大傾向にある1月から継続的な広報等の実施 3か月間	達成	○啓発用物品(ティッシュ、マスク)を作成し、管内市町村や各所(課)が主催する会議等を利用して配付。また、地元放送局のスポット放送及び新聞社への広告掲載、さらには、広報車の巡回を通じて、感染症対策強化の徹底について呼びかけを実施した。 ○1月下旬には感染状況に落ち着きが見られたが、全県に医療非常事態宣言が発出中であり、感染に警戒が必要な状態であることから、引き続き、感染拡大防止対策の徹底についての呼びかけを実施した。 ○3月下旬、「感染対策強化期間」が発出されたことを受け、地元放送局のスポット放送、新聞社への広告掲載を実施した。
佐久「地消地産」プロジェクト 高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト	16	観光列車の活用等による地域振興事業	企画振興課	722,298	○花きの展示等による生産者応援イベント参加者数 50人以上	未達成	○新型コロナウイルス感染症の影響により、観光列車を活用したイベントの開催は中止した。 ○令和3年3月12日から3月21日までを「花がSAKU 生産者応援フラワー旬間」と定め、JR佐久平駅及びJR軽井沢駅に佐久地域産のアルストロメリアを展示し、併せて花の購入促進イベントを開催。 ○首都圏における緊急事態宣言延長の影響などにより、観光客による花の購入の増加に繋がらず、想定よりイベント参加者は少なかった。 ○イベントを通じた花の購入金額 233,579円。
防災体制の強化	17	災害発生時における体制強化事業	総務管理課	185,658	○災害発生時を想定した対応の再確認・訓練の実施等	達成	○災害時における情報連絡員は、夜間の派遣や現場状況等が不明な点も多く、危険が伴うことも多いが、今まで、安全装備の確保が十分なされていなかった。そのため、このたび、ヘルメット及びヘッドライトを購入した。 ○被災箇所等の確認に使用していた住宅地図について、データが13年前以上のものであり現況と合わなくなっていること、また、被災経路までの確認のため、このたび最新版を購入した。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、訓練等は実施しなかった。なお、春先は空気が乾燥し林野火災が発生しやすいことから、佐久地方部構成機関の担当者会議を開催し、特に閉庁日における情報連絡員の派遣体制、連絡・手順の確認を行った。 ○災害発生時の各構成機関における連絡体制や情報収集体制について、あらためて、確認の機会とすることができた。

執行区分	令和2年度	令和元年度
当初予算額(A)	10,710,000円	10,700,000円
実績額計(B)	9,703,868円	9,776,180円
執行残額(A-B)	1,006,132円	923,820円
執行率(B/A*100)	90.6%	91.4%

評価区分	令和2年度	令和元年度
達成	7事業	期待どおり:9事業 やや下回る:4事業
一部達成	3事業	
未達成	3事業	
合計	13事業	13事業

※評価区分を変更
※中止4事業は含めず

※中止1事業は含めず